

# 全国食肉衛生検査所協議会病理部会研修会（第70回） における事例報告（I）

日名 由紀子<sup>†</sup>

全国食肉衛生検査所協議会病理部会事務局千葉県東総食肉衛生検査所  
(〒289-2504 旭市ニ5908-3)

Proceeding of the Slide-Conference held by Pathology Group of the National Meat  
Sanitary Inspection Office Council (70th) Part 1

Yukiko HINA<sup>†</sup>

*Chiba Prefectural Tousou Meat Sanitary Inspection Office,  
5908-3 Ni, Asahi-city, 289-2504, Japan*

(2018年6月5日受付・2018年11月5日受理)

全国食肉衛生検査所協議会病理部会が主催する第70回病理研修会が2015年5月14、15日に麻布大学で開催された。今回は19機関から、再提出を含め、演題No. 2306, 2309, 2318, 2328~2345の21題について討議された。No. 2337, 2339, 2340については再検討となり結論が持ち越され、No. 2309, 2334については追加報告となった。以下、これら16事例の概要を述べる。診断名の括弧書は疾病診断であり、必要に応じ併記した。

また、第70回病理研修会提出演題から、No. 2330 鶏の体腔内腫瘍〔谷村美穂（高崎市）〕、No. 2341 牛の子宮の腫瘍〔阿部あすみ（栃木県）〕、No. 2343 豚の肺〔稲葉夏深（富山県）〕が優秀演題として選出された。

## 事例報告

### 1 鶏の腹腔内腫瘍

〔井上奈奈（宮城県）〕

**症例：**鶏（プロイラー）、雌、54日齢。

**臨床的事項：**同一ロット5,396羽中の1羽に発生。生体検査で異常は認められなかった。

**肉眼所見：**盲腸及び十二指腸に直径2~3cm大の暗赤色腫瘍が1個ずつ認められた。腫瘍は漿膜面に隆起しており、周囲組織との境界は明瞭であった。腫瘍剖面は

淡桃色部分と暗赤色部分が混在しており、充実性で硬結感を有していた。その他、内臓及びとたいに著変は認められなかった。

**組織所見：**腫瘍は漿膜に存在し、顕著に増生した膠原線維と多数の拡張した血管で構成されていた。この血管の内壁は、膠原線維を伴い管腔内へ乳頭状に突出しており、その管腔内には赤血球と血漿成分が充満し、血栓も認められた（図1）。管腔を内張りしている内皮細胞に、異型性は認められなかった。また、内皮細胞は抗ヒト第Ⅷ因子関連抗原ウサギポリクローナル抗体（Dako）に対して陽性を示した。

**組織診断名：**鶏の十二指腸及び盲腸の洞様血管腫

### 2 豚の腎臓腫瘍

〔高木慎介（豊橋市）〕

**症例：**豚（雑種）、雌、推定2歳。

**臨床的事項：**著変なし。

**肉眼所見：**右腎門から腎臓前端に向かって腎臓を覆う淡桃色の大きさ30×25×15cmの腫瘍を認めた。腫瘍の表面は凹凸状で、剖面は出血壊死傾向が強く一部で石灰化を認めた。子宮には内膜面に、直径1~3cmの有茎状の腫瘍が散在していた。肺には、全葉にわたって直径2~4cmの結節が多発していた。

<sup>†</sup> 連絡責任者：日名由紀子（千葉県東総食肉衛生検査所）

〒289-2504 旭市ニ5908-3 ☎0479-62-2887 FAX 0479-62-2757

E-mail : tousyokken@mz.pref.chiba.lg.jp

<sup>†</sup> Correspondence to : Yukiko HINA (Chiba Prefectural Tousou Meat Sanitary Inspection Office)

5908-3 Ni, Asahi-city, 289-2504, Japan

TEL 0479-62-2887 FAX 0479-62-2757 E-mail : tousyokken@mz.pref.chiba.lg.jp

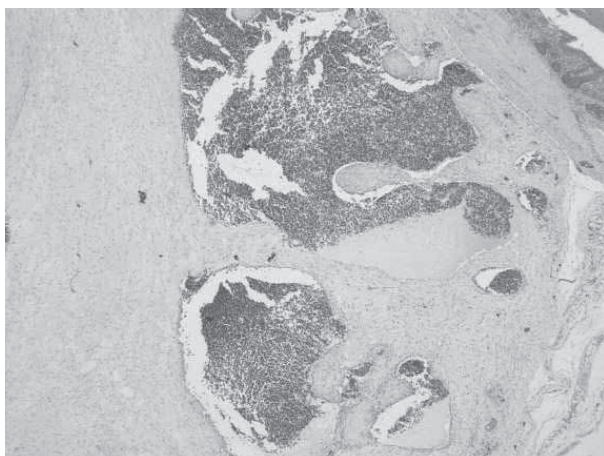


図1 鶏の盲腸漿膜腫瘍

拡張した血管と膠原線維で構成され、血管内壁は、膠原線維を伴い管腔内へ乳頭状に突出している（HE染色 ×100）。

**組織所見：**腎臓腫瘍では、楕円形から類円形の核を有し細胞質に乏しい腫瘍細胞の増殖を認めた。一部の壊死傾向の強い部位では、紡錘形から不定形の腫瘍細胞が増殖し、また豊富な細胞質を有し好酸性で円形から類円形の横紋筋芽細胞を少数認めた。肺の結節は腎臓と同様の腫瘍細胞が増殖し胞巣を形成していたが、胞巣の一部に管腔構造を認めた。子宮腫瘍では、腫瘍細胞が固有層から内腔に向かって充実性に増殖していた。免疫組織化学検査の結果、腎臓腫瘍、子宮腫瘍及び肺腫瘍の管腔構造を形成していない腫瘍細胞はWT-1（6F-H2）に陽性であった。

**診断名：**豚の腎芽腫

**討議：**子宮と腎臓では腫瘍組織像がかなり異なるとの指摘があったが、特異性が高いWT-1に対する染色性の結果から、子宮の腫瘍も腎芽細胞由来であると考えられた。

### 3 鶏の肝臓

〔吉野恵子（山梨県）〕

**症例：**鶏（肉用種）、性別不明、80日齢。

**臨床的事項：**平成27年2月23日に搬入された1ロット468羽中の1羽。

**肉眼所見：**肝臓の右葉表面に、青緑色、半透明で波動感のある嚢胞（4×3×2cm）を認めた。内容物はゼリー状の塊を含む液体で、色調から胆汁を含んでいると考えられたが、胆嚢との連絡は認められず、嚢胞以外に肉眼的な異常は認めなかった。

**組織所見：**嚢胞壁はおもに単層扁平上皮で内張りされた膠原線維から成り、嚢胞による周囲肝組織の圧迫、胆嚢付近の胆管壁の肥厚及び小葉間結合組織に炎症像が認められた。嚢胞壁と肝被膜の境界部では、双方の結合組

織が増生、肥厚し結合していた。嚢胞のゼリー状の内容物は線維素と組織から脱落したと思われる細胞や組織球を含んでいた。

**診断名：**鶏の肝臓の胆管憩室

**討議：**当初、診断名は「鶏の単純性嚢胞肝」であったが、嚢胞内に胆汁を含んでいる点から一般的な嚢胞ではなく、胆管が形成異常を起こし肝表面にできた胆管憩室であるという意見があり、診断名を改めた。その他の所見として、肝組織中に壊死巣が散見され、細菌感染の可能性があるという意見があった。

### 4 鶏の卵管腫瘍

〔佐藤孝志（埼玉県）〕

**症例：**鶏（採卵鶏）、雌、月齢不明。

**臨床的事項：**著変は認められなかった。

**肉眼所見：**鶏体の腎臓近く、卵管漏斗付近に約20×7cm大の腫瘍が認められた。腫瘍は、暗赤色または黒赤色を呈した表面に光沢感を有する粟粒大から大豆大の嚢胞が無数に集合して形成されていた。大小の嚢胞は黄白色から白色充実性の組織により結合していた。嚢胞の断面は、暗赤色または黒褐色の血液やその凝固物が満たし、切断する際に一部硬結感を有するものもみられた。腫瘍が連続する卵管内は、卵殻様物質や卵黄様物質が貯留し拡張していた。肝臓は黄褐色を呈し、やや腫大し脆弱であった。小腸漿膜面に軽度の線維素の付着が認められた。その他の臓器に、著変は認められなかった。

**組織所見：**腫瘍部には、大小の管腔様構造が認められた。これらの管腔内には、有核赤血球を容れており、大きい管腔には、それに加え硝子様物質が充満していた。また、網目状に毛細血管様の小さな管腔が集合した構造を成す部位も認められた。これらの管腔は、血管内皮様の細胞により内張りされており、アザン染色及びPTAH染色で管腔壁内に筋線維の層が認められた。免疫染色で大小の管腔壁は抗デスミン抗体陽性、管腔を内張りする細胞は抗第Ⅷ因子抗体陽性を示した。管腔構造の周囲には結合組織の顕著な増生がみられ、その中に卵管の筋層の遺残と思われる筋線維束が認められた。

**診断名：**鶏の卵管漏斗付近にみられた血管過誤腫

**討議：**増殖する血管様構造は明瞭な壁構造を有し、また、明確な筋層が認められ、内皮細胞の増生がみられないことから、血管腫ではなく、過誤腫とすることが妥当であるとの指摘で診断名が変更された。

### 5 鶏の体腔内腫瘍

〔谷村美穂（高崎市）〕

**症例：**鶏（ブロイラー）、雌、50日齢。

**生体所見：**著変を認めず。

**肉眼所見：**体腔内に8×7×2.5cm大の腫瘍を認めた。

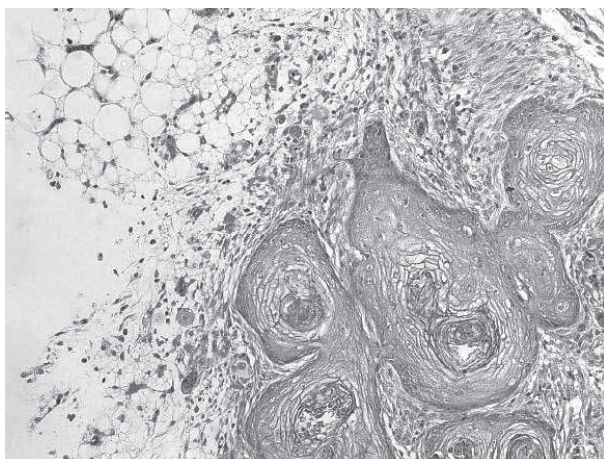


図2 鶏の成熟奇形腫  
表皮様の角化重層扁平上皮とケラチンパール状の角質形成、周囲に脂肪組織を認める (HE 染色 ×400)。

一部は腸管に癒着していたが、内臓摘出後検査の際に容易に剥離された。腫瘍は乳白色～淡桃色で柔らかく、表面は被膜に覆われていた。複数箇所にも0.5～1cm大の嚢胞や、石灰化を認めた。嚢胞内には透明や暗赤色の粘液が貯留していた。腫瘍断面は、淡桃色で充実性の部分や、白色で石灰化した部分、脂肪様組織、嚢胞等が混在していた。体腔内には腹水の貯留を認めたが、他臓器への腫瘍の播種は認められなかった。

**組織所見：**腸管もしくは気管、表皮、軟骨、海綿骨、筋肉、神経、脂肪など、さまざまな組織成分が混在していた。腸管もしくは気管様の管腔構造は単層円柱上皮や多層円柱上皮に内張りされ、一部に線毛上皮様の構造を認めた。杯細胞及び管腔内の分泌物はPAS反応陽性を示した。また、表皮様構造は重層扁平上皮から成り、ケラチンパール状の角質を形成し(図2)、抗サイトケラチン(AE1/AE3, Dako)陽性を示した。軟骨様構造は硝子軟骨で、PAS反応陽性、マッソン・トリクローム染色により青染した。海綿骨様構造もマッソン・トリクローム染色により青染した。筋組織様構造には横紋が認められ、PTAH染色により青染し、アクチン(HHF35, Dako)陽性を示した。神経組織様構造は抗S-100(Dako)陽性を示した。

**診断名：**鶏の成熟奇形腫

**討議：**腫瘍組織中にリンパ組織様の組織があり、脾臓を模したものではないかという意見があった。

## 6 鶏の体腔内腫瘍

[高野裕二(群馬県)]

**症例：**鶏(ブロイラー)、雄、58日齢。

**臨床的事項：**消瘦を認めた。

**肉眼所見：**胸腔内の心臓基部付近に5×4.5×0.8cm

大の板状黄白色の最大腫瘍を認め、腎臓、心臓、肺、肝臓、十二指腸漿膜面、胸腺及び腺胃にも針頭大から大豆大の黄白色腫瘍が多発していた。腫瘍断面中心部には壊死巣を認めた。他の臓器に著変は認められなかった。

**組織所見：**肺及び腎臓の腫瘍部は、大小さまざまな壊死巣を多核巨細胞及び類上皮細胞が取り囲み、肉芽腫性炎の所見を呈していた。壊死巣内部には、真菌菌糸を疑う管状構造物を認めた。胸腔内の最大腫瘍及び肝臓等の腫瘍部にも、同様の肉芽腫性病変がみられた。管状構造物は隔壁を有し、Y字型分枝がみられ、PAS反応は陽性、グロコット染色で黒色を呈した。また、抗アスペルギルス抗体を用いた免疫染色で陽性を示した。

**診断名：**鶏のアスペルギルスによる肺及び腎臓の肉芽腫性炎

**討議：**管状構造物の同定には、DNAを抽出しPCRを試す方法があるとの意見があった。

## 7 牛の下顎部腫瘍

[吉野 学(千葉県)]

**症例：**牛(ホルスタイン種)、雌、40カ月齢。

**臨床的事項：**一般畜として搬入され、右下顎腫脹のほかに異常を認めなかった。

**肉眼所見：**右下顎骨は著しく変形し、外側には骨から皮下にかけてソフトボール大、黄白色、密実な線維性腫瘍を認めた。断面には粟粒大の淡黄褐色の硫黄顆粒を認めた。腫瘍の一部から咬筋にかけて黒変し、腐敗臭が著しい壊死病変があった。また、内側には前臼歯に沿って2×5cm大の一部赤みを帯びる黄白色の腫瘍を認めた。

**組織所見：**腫瘍部のスタンプ標本において、グラム陽性桿菌及び菊花弁状ロゼットを認めた。パラフィン切片においては、肉眼で硫黄顆粒がみられた部分に好中球が集簇する化膿巣があり、その中に好酸性の棍棒体Splendore-Hoeppli物質に囲まれたPAS陽性、グラム陽性の線維状桿菌を認めた。その周囲には類上皮細胞及び多核巨細胞の層、リンパ球の層があり、さらに線維細胞、線維芽細胞、アザン染色で濃い青色に染まる膠原線維から成る結合組織が被包していた。

**細菌検査：**5%馬血液加寒天培地を用いた嫌気培養で白色微細なコロニーが発育し、溶血は認めなかった。分離菌の性状は、グラム陽性分岐・菌糸状桿菌でカタラーゼ(-)、でんぷん分解能(+)、硝酸塩還元(-)、ゼラチン液化(-)であり、*Actinomyces bovis*と同定した。

**診断名：**牛の右下顎部にみられた*Actinomyces bovis*による化膿性肉芽腫(牛の放線菌症)

(次号へつづく)